

ス
リ
ッ
プ

カブリッツキ

隔月連載

有賀美雪の

楽屋育ちのひとりごと 19



今年の有賀は
“いけてる有賀”

プレマガ読者の皆さま、並びにストリップファンの皆さま、新年明けましておめでとうございます。今年も一年よろしく願います。今年は私も、寅年の年女。今まで頭を悩ませまくったステージ構成にも、新しい内容を取り入れていきたいと思っています。

と、いうわけで98年の有賀は話題豊富ですよ。「いけてる有賀に大変身」ということになりました。さて、何がどのように変身するのかといいますと、このところ舞台に立っていて、自分自身がわからなくなるのがよくあるんです

よ。もう、この際だから自分の心の中をすべてお話しますね。

まず最近、ステージで踊っているとき、前みたいにお客さんを圧倒してやるっていう気合いがないんですね。そして私の取り柄でもあるオープンの時のバカ明い有賀美雪にも、どうもなれないんです。以前はなんとも思わなかったラストのオープンにしても、妙に恥ずかしく感じるようになってきたし。これって、歳のせいなのかなあ。自分自身、無理して前のようながむしやらかな有賀に戻そうとして

いる今日この頃なのです。

まあ、大人のムードの色気つてのも懂れるんだけど、今までの自分のチャームポイントだった“ボーイッシュで元気で明るい”部分が消えてしまうと、なんだか自分がごく普通のその辺にいる女の人と変わらないように思えてくる。女に生まれて女として生きていくのに、わざわざ女らしく振る舞ったりするのって、どうもいやなんだよね。それってなんだかずるいように思えるの。私はいつまでも、自分のなかの少年のような部分にこだわっていたいの。

だからなにか妙な心境です。変化する自分を受け止めきれずにいるようです。また、それが原因かどうかはわかりませんが、自分の先々に対しても不安に思えてきます。このままずっと踊り続けられるわけでもないのに、自分には踊りしかないんです。踊り子でなくなったら、私の生き甲斐はどこで見つけたらいいのでしょうか。違う世界で、自分の必要性や存在価値は、少

しも持つことができるんでしょうか。そう思うと、ステージ以外の場所で“生きる”自分を見つけるなんて、どうも無理に等しいと、つくづく思い知らされてしまいます。

だったらせめて、とことん“いけてる有賀になりたい”って気持ちになつてきたの。そのためには、私はずっとオナニーベッド一本でやって来たんだけど、これも考え直さなくっちゃね。これって、えげつないってことで低く評価されてしまう。それに比べてポーズベッドは女性の身体を美しく見せるってことで評価も高い。

私だって人並みにポーズベツドくらいはできるんだぞ。でもそれだけになったら、私の考えているストリップとは少し違う。ならば一日4回のステージを、オナニーとポーズで2回ずつ演じてやろう。

どうも正月早々、面倒くさい話で恐縮です。そんなわけで3月にはまた、岡崎、名古屋へお世話になりますので、遊びに来てくださいね。それじゃ。